

# Chord Tone Arpeggio Basic Training vol.07

## 確実に覚えておきたい、コードトーン・アルペジオの話 ～Xm7(b5)、6種のパターン～

さて、気が付けば7回にもなったこの講座ですが、今回の Xm7(b5)のアルペジオで終わりになります。

このコードでも、今までと同じくらいのパターンは出せますが、音の配置的に、実用性の低いものが多いので、ある程度弾きやすいものだけ抜粋していきます。

ちなみに、インターバルは Xm7 から 5 度が半音変わって、

root、m3rd、 $\flat$  P5th(dim5th)、 $\flat$  7th(m7th)

となりますね。

いきなり Xm7(b5)のアルペジオだけを見ると、(主に  $\flat$  5th の位置のせいで)視覚的にかなり戸惑うかもしれませんが、Xm7 との違いで見るとそれなりに把握しやすくなるでしょう。

後は、また別の話になりますが、Xm7(b5)は

Xdim7 のアルペジオ(root、m3rd、 $\flat$  5th、 $\flat$   $\flat$  7th)

と 1 音違いですので、そちらと関連させて覚えるのも良いでしょう。

(※Xdim7 のアルペジオは、過去に配布した【教科書】の vol.58～等で解説しています)

それでは、やっていきましょう。

### 譜例 1、Bm7(b5)、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その1

Em7( $\flat$ 5)

*mf* 小 中 人 小 人 小 薬 中 小

T  
A  
B

7 5 3 7 4 7 6 5 7 7 5 6 7 4 7 3 5 7

Xm7(b5)のアルペジオで重要なのは、これらの形を丸暗記しているかどうかもありますが、「b5thの位置が見えているかどうか」の方がプレイ面としては重要です。

前回までの Xm7 のアルペジオと見比べて、P5th→b5th となっていることを把握しておきましょう。

次は6弦ルートから始まる、1オクターブ間のパターンです。

### 譜例 2、Bm7(b5)、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その2

6弦ルート(1、4小節目)の方は、少し弾きにくく感じるかもしれませんが、これをそのままフレーズとして使うというよりも、音の配置(こちらも特にb5thの位置)を掴むような感じで弾いてみましょう。

それと、次の譜例も、始めの3度(5弦8フレット)を弾く位置を変えただけで、ほぼ同じ形ですね。

### 譜例 3、Bm7(b5)、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その3

前の譜例 2 もそうなのですが、これらの6弦ルートから1オクターブ間(4弦9フレットまで)を弾くブロックは、Xm7(b5)の構成が理解しやすくなる、基本配置の様なものですので、必ずマスターしておきましょう。

それでは、続いて5弦ルートのパターンに行ってみましょうか。

譜例では、全てB音ルートにしてありますが、ポジションが高すぎて弾きにくく感じる場合は、ルート音を変えて7~9フレット近辺のものに弾き変えてみていいでしょう。

譜例 4、Bm7(b5)、5 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 1

Bm7(b5)

13 14 15

小 中 人 小 中 人 小 薬 13-10 12 14-10 小 中 薬 人 薬 中 小

T 10-14 12

A 14-12 12 14

B 14 14-12 13-10-13 12-14

こちらの譜例は、比較的弾きやすいものになっているかと思えます。

今回の譜例全般に言えることですが、一番最初にお話しした、Xdim7 のアルペジオ(特に 5 弦ルート)とも演奏感がかなり近いので、弾き比べてみると構造がわかりやすくなりますね。

後は、3 小節目の、5 弦のルート音(14 フレット)まで弾き切った後、ついでに 6 弦方向まで(音程をさらに下げる方)を見た時、 $b5$ th がどのような位置に来るのかも把握しておきましょう。

ちなみに、vol.01~06 までは全て P5th を含むコードだったので、同じ位置に 5 度が来ましたが、今回はそれが半音ズれているので、弾きごごちがかなり違うはずです。

ただこれは、逆に言えば「変化がわかりやすい」と言うことでもあるので、「あ~こういうことか」と、コードの構造の違いを染み込ませる良いチャンスでもあります。

では、次は真下に展開するパターンです。

譜例 5、Bm7(b5)、6 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 2

Bm7(b5)

16 17 18 19

人 小 中 人 薬 中 人 小 人 小 人 小 人

T 14-16 15 17-13 15 16-14 人 小 人 小 人

A 14-17 15 15 17-14 14 14 17-13-17 14

B 14-17 15 17-14 14 14 17-13-17 14

これがある意味、Xm7(b5)のアルペジオの基本形として出てくるかもしれません。

コードヴォイシングと共に覚えてしまいましょう。

※Bm7(b5)、5 弦ルートの代表的なヴォイシング

最後は、5弦ルートから1オクターブずつ弾いたパターンですね。

### 譜例6、Bm7(b5)、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その3

6弦ルートで同じことをした譜例2よりも、こちらの方が弾きやすいかと思います。

と、ということで、今回は以上になります。

弾いていて感じると思いますが、やはり  $b5$  の響きが独特ですよ。

この音は、ぱっと見は使いにくそうですが、ブルースなどはもちろん、意外と様々なジャンルで活かせるので、ある種必須と言っても良いかもしれません。

他のアルペジオよりも、最初は掴みどころがなく感じるかもしれませんが、やはり丁寧に繰り返していると、ある種、構造や音の配置に「パターン」の様なものが見えてきますので、この感覚をつかむことが大事です。(頭でも、身体でも)

早く覚えようと焦らずに、長期的な基礎練習の一つとして組み込んでみてくださいね。

ありがとうございました。

大沼